

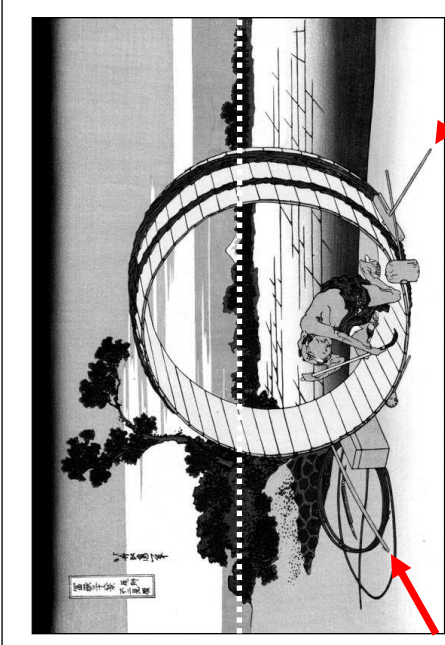
文章中のどこに注目すればよいのか？〈問い〉をよく読んで考えよう。



次の【一】、【二】の文章を読んで、それぞれあとの問いに答えなさい。

【一】

内野さんは、葛飾北斎が描いた「尾州不二原」という絵を見て鑑賞文を書きました。



【内野さんの文章】

この絵の構図に興味をもった僕は、まず図版のコピーに一本の線（点線）を引きました。すると、富士山が上下の中心線上に描かれていることが分かりました。

次に、大きな丸いおけの両側にある丁字型の道具の柄と細長い材料とがハの字になっていることに気づいた僕は、それぞれを示す矢印の付せんを貼りました。そして、右の道具と左の材料を指す矢印の先端を直線に沿って延ばしたとき、職人の頭上で交わり、後方の富士山と同じような角度をもつ山の形が現れることに気がきました。一見、無造作に置かれているかのように思えるこの二つは、実は、綿密な計算のもとに配置されていたのです。

相似の関係ともいえる大小二つの山形からは、北斎の形への強いこだわりがうかがえます。 〈文章が続く。〉

〈問い〉

次は、線部「相似の関係ともいえる大小二つの山形」についての説明です。□に当てはまる言葉を、文章中から三十字で書き抜きなさい。

ここぞいう「小さい山形」は、富士山の稜線である。一方、「大きい山形」は、

Table with 2 rows and 15 columns for writing answers.

に現れる形である。

【二】

日本では、「話し上手」とともに「話し下手」という言葉がよく使われる。このことは、普通を基準として、それよりも話すのが上手なレベルがあれば、下手というレベルもあるという日本人の認識を示している。片や「聞く」に関しては、「聞き上手」はよく耳にするが、「聞き下手」はめったに聞くことがない。聞くのが上手な人というのはいるが、聞くのが下手な人というのはいない――。この認識においては、聞くのが上手な人以外は、みんな普通のレベルだということになる。

ただしこれは、とんでもない誤解である。聞くことにも、ちゃんと上手もあれば下手もある。話す場合と同様、聞くことにも、すごく上手だというレベルからすごく下手だというレベルまで、様々なレベルがあるのだ。 〈文章が続く。〉

〈問い〉

線部「これ」が指す内容を、文章中の言葉を用いて、三十字以上、四十字以内にまとめて書きなさい。

Table with 2 rows and 15 columns for writing answers.

- 一 右の道具と左の材料を指す矢印の先端を直線に沿って延ばしたとき
- 二 聞くのが上手な人というのはいるが、聞くのが下手な人というのはいないという認識
聞くのが上手な人以外は、みんな普通のレベルだという日本人の認識 等